

平成29年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

(1) 名称

平成29年度 東京都立富士高等学校・東京都立富士高等学校附属中学校 学校運営連絡協議会

(2) 事務局の構成

総務部主任＝事務局長、経営企画室長 計2名

(3) 内部委員の構成

校長、副校長(2)、経営企画室長、教務情報部主任、進路学力部主任、生徒部主任、
高校学年主任代表、中学学年主任代表 計9名

(4) 協議委員の構成

P T A会長、同窓会長、近隣中学校長、近隣自治会長、有識者〔大学教授〕(2)、
近隣児童館長、消防署長、民生児童委員、 計9名

2 平成29年度学校運営連絡協議会の概要

(1) 学校運営連絡協議会(第1～3回)の開催日時、出席者、内容、その他

第1回 平成29年6月16日(金) 内部委員6名、協議委員7名

協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の選出

平成28年度の学校経営計画達成状況と29年度の学校経営計画の説明、意見交換

第2回 平成29年11月17日(金) 内部委員6名、協議委員8名

理数アカデミー事業報告、生徒会役員との懇談、

今年度の学校評価の内容と進め方について協議、進捗状況と今後の課題

協議委員からの教育活動に対する意見、協議

第3回 平成30年2月13日(火) 内部委員6名、協議委員7名

理数アカデミー事業報告、英語教育推進校事業報告、

各分掌から提出された「29年度のまとめ」を用いて説明、

学校評価アンケートの集計結果及び分析結果報告 学校評価、協議

(2) 評価委員会の開催日時 特に評価委員会を行うことはしていない。

第1回学校運営連絡協議会にて方針を確認、第2回のとしまでに文書・電話にて意見交換
を行い、学校評価の内容、手順を確認した。その後、第3回学校運営連絡協議会の3週間
前を目途に学校評価アンケート結果について郵送し、内容を確認してもらい、承諾を得た。

3 学校運営連絡協議会による学校評価(学校評価報告)

(1) 学校評価の観点

「学校経営計画の評価」の観点で実施する。

(2) アンケート調査の実施時期・配布対象・規模

- ・ 12月 中学校保護者全員 対象：357人 回収：226人 回収率：63.3%
- 高校保護者全員 対象：577人 回収：310人 回収率：53.7%
- ・ 1月 中学校生徒全員 対象：359人 回収：357人 回収率：99.47%
- 高校生徒全員 対象：577人 回収：553人 回収率：95.8%
- 教職員全員 対象：67人 回収：67人 回収率：100%
- 近隣住民 対象：20人 回収：13人 回収率：65.0%
- 塾関係 対象：10人 回収：5人 回収率：50.0%

(3) 主な評価項目

学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動・部活動、健康・安全、施設・設備、
広報活動、体罰やいじめへの取組み、及び学校経営計画数値目標などの視点から、本校の現
状や生徒、保護者の求めていること、学校経営計画の達成状況について、ポイントを絞って

項目を設定する。

(4) 評価結果の概要 (校長や学校全般への意見・提言等)

- ・ 校長便り、ホームページについては中高ともに保護者は安定した評価である。
- ・ 理数アカデミー、土曜講座、放課後スタディについては、保護者は高く評価し、総合考査は中学1年生が76%以上評価しているが高校生の評価は低い。放課後スタディは中学1年2年の評価は低い。
- ・ 学校の授業への信頼は中高ともに1年が低いが、高3になる評価は上昇し、半数にまでは届かないが習熟度別授業については半数以上が高評価している。
- ・ 進学指導・キャリア教育については、中高ともに評価は高い。中学高校ともに保護者の評価は高く高校の保護者は8割を超えている。
- ・ 悩み相談については、中学高校とも年齢が上がるにつれ評価が上がる。これは、悩みの種類に変化があると思われる。
- ・ 予習・復習・学習習慣については、中1が一番自己評価が高い。高3で自己評価が浄書している。
- ・ 図書館利用は、いずれの学年も根付いていない。
- ・ 地域からは地域とのつながりを大切にしていると評価された。また、塾が今の富士を高く評価している。

(2) 評価結果の分析・考察 (校長や学校全般への意見・提言等)

- ・ 理数アカデミー校指定について、校外への周知は功を奏し、中高とも応募倍率が上がった。
- ・ 図書館や自習室の活用状況は向上して生きているが、図書の貸出率は低迷している。探究未来学に適応した図書の選定が課題である。
- ・ 地域評価が高いのは、文化祭の花火の事前説明に歩いた成果である。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題 (学校の自己評価への反映)

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・ 取組の成果や課題を共有し、協議委員の方々助言を受けることにより、教員が、より広い視野で職務遂行できるようになった。
- ・ 協議委員との意見交換により、課題に対する具体的な対応策について助言を得ることができた。
- ・ 多様化している生徒の状況理解の為、教育相談員会を組織し年間9回開催し情報共有した。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・ 理数アカデミー事業について校内周知を徹底すること。
- ・ 中3と高3の学習習慣の自己評価が低いが、高校0学期の取改善を検討している。
- ・ 探究力、キャリア教育の充実、読書活動のより一層の推進が必要であること。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項 (学校経営計画への反映)

(1) 学校運営

- ・ 学校HPをさらに活用する。
- ・ 「探究未来学」を充実させるため、教員だけでなく生徒の先進校派遣を積極的に実施する。系統的な指導体制、組織体制を確立する。

(2) 学習指導

- ・ 教科主任会を組織的に機能させ、教科分析会で学力テスト・考査分析を行い学力状況を把握するとともに指導力向上を図る。
- ・ 授業で勝負するプロ教師集団を意識付ける。
- ・ 学習について、自主自律が身につくよう、予習・復習を中学から徹底させていく。

(3) 特別活動

- ・ 本校の伝統である文武両道の校風を継承し、生徒の自主的な活動を支援する。
- ・ 富士三大行事(体育祭、文化祭、合唱祭)の企画運営への生徒参加の推進。生徒会による自主的、創造的活動をより一層推進し、自身の有意感を育成する。

(4) 生活指導

- ・制服指導の徹底を継続する。
- ・校内研修を充実させ、教員による体罰・暴言の撲滅を図るとともに、いじめに対しては、組織的に毅然とした対応が取れるように、いじめ防止基本方針の徹底を図る。
- ・避難訓練を計画的に行い、生徒の防災意識を高めるとともに、セーフティ教室を通して、薬物乱用防止、情報モラル教育など地域と連携した取組みを強化する。
- ・地域清掃、防災体験、近隣小学校、特別支援学校等への奉仕活動を通じて地域との連携し、体験を通して生徒の意識向上を図る。
- ・校内研修を充実させ、体罰や暴言を根絶するとともに、いじめについてはいじめ防止基本方針をもとに「いじめ対策委員会」が中心になって組織的に取り組む。

(5) 進路指導

- ・中高一貫教育校としてのミッションを踏まえ、難関大学合格を含めた進学実績を目指す。
- ・模試や模試分析を活用し、生徒の学力把握、学力向上の推進、分析会など、校内の組織的な体制をより一層整える。
- ・自らの進路希望を高く維持できる意識づけをさせながら、自信をもたせる指導をする。
- ・同窓会（若竹会）や親父の会等との連携を深め、社会人の講演会や懇談会を実施し、キャリア形成を視野に入れたキャリア教育の充実をより一層推進していく。

(6) 健康・安全

- ・安全衛生委員会等、産業医との面談をより推進して、教員のメンタルヘルス体制を構築する。
- ・ゴミの分別、省エネの推進をより一層強化することで生徒の学習環境に対する意識を高める。
- ・「花のある学校づくり」に向けて、生徒の活動を支援する。

6 「学校がよくなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 9人

(2) 学校がよくなったと答えた協議委員の人数 8人（回答者8名）

そう思う	多少 そう思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	そう思わな い	わからない	無回答
6	2	0	0	0	0	1

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

(1) 実績

なし

(2) 成果

なし

8 その他

なし